

奈良女子大 泉政 中川 早苗

華頂短大 ○西原 容以

目的 被服を選択、入手し、着装し、廃棄するに至る人間の被服行動は、個人の内的要因や他者を含む外的要因によって大きく影響を受けると考える。本研究では、このような人間の被服行動を解明する手がかりを得るために、女子短大生の被服に対する意識や行動を、態度を中心に測定し類型化すると共に、社会心理的特性との関連について考察を試みるものである。

方法 理論仮説に基づく分析モデルを基に調査表を作成し、昭和60年4月に、女子短大生116名を対象にして値回紙調査法による調査を行った。主な調査項目は、自己概念、身体満足度、社会的性格、価値観等の社会心理的特性と、被服に対する態度、似合う服のイメージ、似合う色、制服とのかわり、服装に対する自由感、等である。集計分析には、単純集計、クロス集計、林の数量化Ⅱ類、クラスター分析、因子分析、の手法を用いた。

結果、被服に対する態度への反応パターンをもとに、数量化Ⅱ類による分析を行い、得られる主要な軸への個人得点をもとにクラスター分析を行った結果、被服調査者を4タイプに分類することが出来た。これらの4タイプと社会心理的特性とのクロス集計を行った結果、自己概念、身体満足度、社会的性格、などに各タイプ別の特徴を見ることが出来た。また似合う服のイメージや服装に対する自由感と各タイプとのクロス集計結果から、タイプ別の違いを明らかにすることが出来た。似合う服のイメージについての因子分析結果からは、5つの因子を抽出することが出来、社会的特性や服装に対する自由感との分析から、似合う服のイメージに対する差を見ることが出来た。